

特定非営利活動法人 奈良好き人のつどい
つなぐ つづく道 ～古代から未来へ～

「令和の今 守り伝えたい 古の平城京」

令和4年(2022)12月31日発行

奈良好き人の集い(NPO法人)

奈良が持つ歴史、文化、自然等を活かし、奈良の文化・観光を活かした諸事業等を行い、奈良の経済の活性化に寄与することを活動方針とします。

講座

守り伝えたい平城京 田辺征夫氏 より

平城京の研究と調査 170年

幕末からの170年に及ぶ調査研究の歴史、そして100年あまり続く保存運動の歴史を振り返り、これから私たちはどのように行動すべきかを考えていきたい。

1852年国学者北浦定政は奈良の水田の形をみて平城京の痕跡を探り「平城宮大内裏跡坪割之図」発表。明治40年関野貞は(1907)佐紀村に残る土壇を「大黒の芝」とよばれたところから大極殿を確信した。

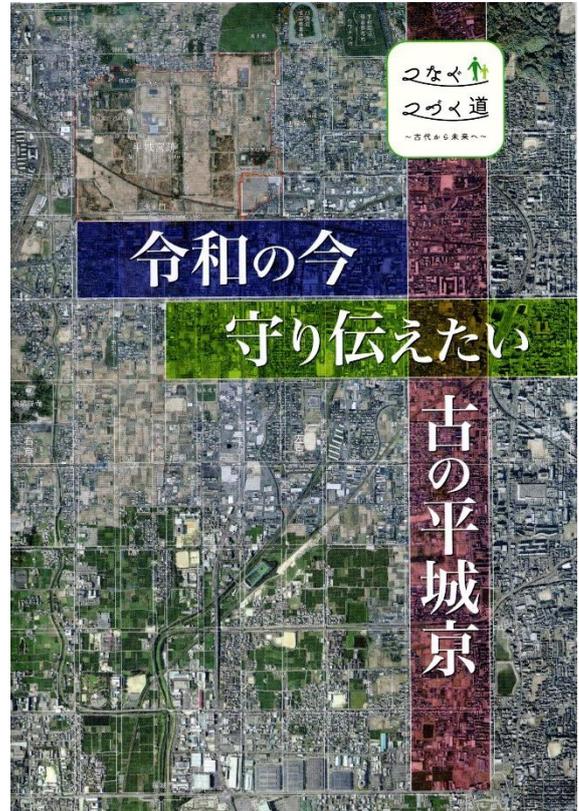
平城京の中核、平城宮跡の全域保存まで

棚田嘉十郎は保存運動を始め明治43年(1910)平城遷都1200年祭を開催。「大極殿址保存会」を結成。全国から募金を募り又私財を投げ打って保存活動をしていたが、募金活動を巡って誹謗中傷を受け失意のうちに自殺。保存会がその遺志を継ぎ、買収した土地を国に寄贈した。

大正11年(1922)平城宮跡が史跡指定。それから国が指定地を広げてきた。内裏跡や長屋王邸宅址など発見され保存範囲拡大。

昭和35年(1960)平城遷都1250年祭開催。(右写真)その後、発掘成果に基づく平城宮跡の整備がはじまった。1998年世界遺産登録。2010年平城遷都1300年祭が開催。

平成31年(2019)の文化財保護改正で保存・整備・修理だけでなく「活用」が追記された。



1250年遷都祭太鼓行列 昭和35年3月

写真提供：谷井孝次氏